

地域主体による観光客の下呂市周遊促進と拡大戦略 (下呂未来創造プロジェクト)

実施地域
岐阜県下呂市

事業概要
下呂市は、下呂温泉エリアを中心に、広域からの新規顧客の獲得、市内の周遊性向上による観光地としての魅力度向上、データに基づいたマーケティングによる安定した地域経営を目指している。一方で、下呂温泉エリア以外の観光資源の認知度は低く、市内の周遊や消費額の向上に繋がらないため、安定した地域経営基盤の確立が困難な状況にある。
本事業を通して、このような課題を解決するため、乗換案内アプリスマートシティモードの実装による情報発信や経路検索機能による周遊性向上、SNSを活用したプロモーションによる新規顧客の獲得を図った。また、マーケティング施策に活用するべく、旅行者の動向データの収集・分析、下呂市の経済波及効果の見える化、既存の宿泊データ分析システムの改修等の取組を実施した。

事業目標と成果

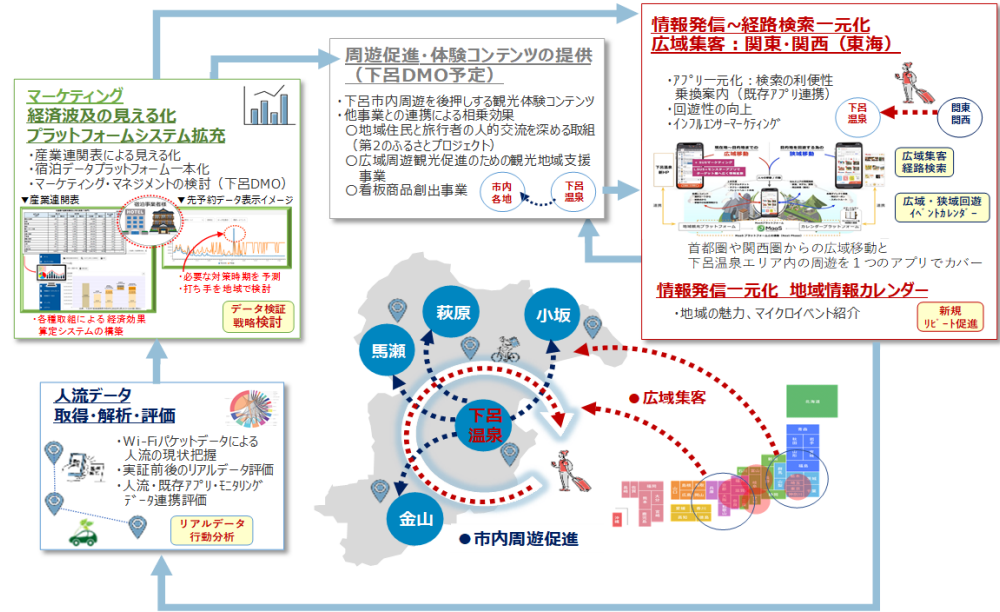
KPI	目標	実績
乗換案内アプリスマートシティモードのユニークユーザー数	15,600名	21,321名
Wi-Fiパケットセンサによる市内の代表的な行動パターンの分析	5件	5件
産業連関表を活用した経済波及効果の分析	1件	1件
下呂温泉エリアにおける分析可能な宿泊施設の割合	100%(48軒)	100%(48軒)

事業の成果

- **乗換案内アプリスマートシティモードの導入による周遊性の向上**
市内の観光情報を乗換案内アプリにて発信し、その観光情報のページから直接経路検索まで行える、スマートシティモードを実装した。閲覧者の現在地を出発地点とした経路検索により、長距離からの来訪や市内周遊の具体的な経路の提案を行い、さらに位置情報を活用したスタンプラリーの実施により、来訪・周遊の促進を図った。また、Wi-Fiパケットセンサにより、市内を訪れた旅行者の移動状況や施設ごとの滞在状況を把握することができた。
- **産業連関表を活用した経済波及効果の見える化や宿泊データ分析システムの改修による地域活性化への取組**
産業連関表による経済波及効果を算出するシステムの改修を行った。そのシステムを活用して12月に開催された下呂温泉花火ミュージカル冬公演による波及効果を分析したところ、消費者が支払った金額の約60%が市外へ流出していることが分かり、市内での調達に成長の余地があることが把握できた。また、下呂温泉観光協会理事会等へ取組の周知を行い、域内調達率の向上に向けて意識を植え付けることが重要であると認識できた。さらに、宿泊データ分析システムの改修を行い、市内の宿泊施設全体のデータの把握が可能となったことにより、精緻化されたデータを基に、各施設が自施設の強みや弱みの的確な把握や、集客に向けて戦略的な打ち手の検討ができる仕組みを構築できた。

実施体制
地方公共団体等：(一社)下呂温泉観光協会、下呂市
観光等事業者：中部電力ミライズ(株)、(株)JTb、(株)創建、(株)オープントーン、
ジョルダン(株)、(株)ジョルテ、(株)ティコク、岐阜大学

実証内容(概要図)



今後目指す姿

- 下呂市内でコロナ以前の年間100万人超の年間宿泊者数を目指す。**
- **継続したデータの利活用及び地域事業者との連携による地域ブランディングの強化**
経路検索データや市内全域の人流データを引き続き分析し、利活用を行うことで、潜在客層の掘り起こしや集客につながるアプローチ方法の選定を行うとともに、高い効果が見込まれるターゲット層に対しては、積極的なプロモーションを継続することで来訪の促進に取り組む。また、地域事業者との連携を図り、地域のブランディングの強化や収益化に向けた取組を継続して行う。
- **市内の事業者の巻き込み及び市内全体の宿泊データの蓄積**
市内で実施するイベントは、経済波及効果の検証を実施して、市内の各事業者と共有を行うとともに、市内での調達率を上げる。
宿泊データにおいては、下呂温泉エリアだけでなく、市内の他のエリアの宿泊データも蓄積することで、市内一体となった戦略的な打ち手に取り組む。